

令和3年5月15日発行

広報“COCO ケア”

“Community comprehensive care”
Hand in Hand ～ 手を携えて ～

第3号

(公益社団法人 宮崎市郡医師会 地域包括ケア推進センター)

★医療福祉部長からのご挨拶★

令和3年3月末をもって宮崎市を定年退職し、4月1日から「病院参事兼医療福祉部長」として「地域包括ケア推進センター」に勤務している^{ながやすさだゆき}永易貞幸でございます。



市役所では、企画部・総務部・環境部・健康管理部・観光商工部・建設部の6部での勤務経験がございます。その中で、平成10年4月の中核市移行時（保健所設置時）からの3年間と平成24年4月からの3年間、健康管理部（宮崎市保健所）に勤務しておりました。後半の3年間は、保健所副所長兼保健医療課長として、主に①医師会病院の移転関連業務②夜間急病センター小児科移転③田野病院の指定管理などを担当しておりました。当時、国が在宅医療・介護連携事業を立ち上げ、市も平成27年度には「医療介護連携課」を立ち上げた時期でしたので、直接的ではございませんでしたが、地域包括ケアシステムについての情報は聞き及んでおり、超高齢化社会において大事なスキームだと認識しておりました。

当センターが目指すビジョンは、「誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、在宅医療と介護が連携して、きめ細やかなサポートができる地域社会の実現」です。微力ではございますが、これまでの経験を活かして、ビジョンの実現に努力してまいりますので、何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

★特集「知っとう！医療介護に関わるお仕事」★ 第2回

第2回目は、宮崎市介護支援専門員連絡協議会を紹介します。取材にご協力いただいたのは、主任介護支援専門員の坂本増美さんで、「三愛園在宅介護支援センター」の管理者をされている方です。現在、宮崎市介護支援専門員連絡協議会副会長の立場で、協議会を支えておられます。



今回は、平成27年度から令和2年度まで、長きにわたり同会長を務められた経験をもとに、協議会の成り立ちや取り組み、介護支援専門員の業務についてお聞きしました。



皆さまこんにちは。

私は、宮崎市介護支援専門員連絡協議会副会長の坂本増美と申します。

本日は当連絡協議会の成り立ちや日々の介護支援専門員活動などをご紹介します。その前に、まず「介護支援専門員」の資格や介護保険の開始について振り返ります。介護保険制度は平成12年（西暦2000年）4月から施行されました。従来の家族介護から介護を社会で支えていく理念で介護保険制度ができました。十年ひと昔とは言いますが、今では懐かしい気がいたします。

この施行に伴い、「介護を社会で担う」ための調整や相談職として「介護支援専門員」も同年に誕生しました。

介護支援専門員になるためには医師・看護師等の医療系国家資格を持つ人や介護福祉士・社会福祉士等の介護・福祉系の国家資格を有する人たちを主として、資格取得試験が設けられました。

現在は若干の変更はありますが、おおむね受験資格者は上記のようです。

皆さん、不思議かもしれませんが、介護支援専門員は国家資格ではありません、県知事認可資格となります。つまり運転免許のように数年単位で研修を受け更新をしていくのです。

さて、このような時代背景を受けながら当連絡協議会は宮崎市で平成13年9月に産声を上げました。介護保険制度施行年の翌年ですね。

職能団体ではあるのですが、小さくてささやかだったそうです。

元々の基本資格で自分が所属していた国家資格者の職能団体からの有志により設立されたと聞いています。

当初は「ケアマネのつどい」という名称で40人程度の事例検討会からスタートしたそうです。世の中のためにケアプランを浸透させたいという熱い思いで会が立ち上がりました。今では設立当時を知る人は少なくなりました。

月日は流れ、現在（令和2年度）の会員数は565名と成長しました。そして、私たちは日本介護支援専門員協会・宮崎県介護支援専門員協会として組織化にたどりつきました。宮崎市介護支援専門員連絡協議会は宮崎県介護支援専門員協会の地域支部として活動できるような組織に発展できました。

ただ現在、私たちのケアマネジメント業務は内容が多様になり複雑化してきました。そのため、研修内容を社会に照らし合わせ大幅に変遷してきました。

今、私たちが直面しているのは、未曾有の少子高齢化の中での介護問題です。90歳以上の超高齢者のみの単身世帯や、認知症老老介護、貧困世帯、介護虐待、ヤングケアラーなど多岐の相談に向き合っています。多職種との連携なくしては、介護支援は実践できない時代なのです。



さらに介護の現場では人材不足が加速し、施設の受け入れが難航することもしばしばあります。そして、いわゆる「8050問題」といわれる長年引きもっている家族がおり、その世話も生じるなど介護の多様性に直面しています。そこで、私たちはそのようなダイバーシティ社会に適応できるように、研修体制や個々の介護支援専門員をサポートする仕組みを練り上げてきました。

- ・会長：副会長・事務局長・会計：会の運営に努め審議会等に出席
- ・事務局：事務処理担当：現在は1年程度で事務局は変更し持ち回り
- ・相談・サポート委員会：一人で活動する介護支援専門員のサポート
- ・広報・渉外委員会：ホームページの運営や広報誌作成
- ・スキルアップ・研修委員会：偶数月の研修会および特別研修の企画運営
- ・施設支援研修委員会：施設等勤務する介護支援専門員の研修会開催
- ・顧問および監事：当協会の運営相談等や助言をいただく



問題点としては、現在、当協会の規模は大きくなり、会員数は500名を超えましたが、事務局が1年程度で変わることもあり、我々役員が資料の作成などに奔走しています。将来までの安定した運営のためには事務局の固定化を目指していきます。先に述べましたように、介護問題は日ごと複雑化を増す中で、私たち介護支援専門員は社会を支えていく気概が必要だと内省しますが、私たち自身もバーンアウトしないように心掛けなくてはなりません。

今後も、各界からの講師をお招きし、県内外問わず講義いただき、実務能力を身に付けてまいります。傍らに「介護支援専門員がいてもらってよかった」と言われるように。そして設立当初の思いを忘れることなく、宮崎市介護支援専門員連絡協議会はこれからも研鑽して参ります。

来年には、宮崎県で全国大会が、牛谷義秀県介護支援専門員協会会長のもと開催されます。皆さまからのご指導と応援を今後ともよろしくお願い申し上げます。



・・・編集後記・・・

介護支援専門員と宮崎市介護支援専門員連絡協議会の活動等について理解を深めることができました。介護支援専門員は、医療介護連携を推進するうえで、欠かせない存在です。当センターとしましても、多職種で活動の応援をしていけるよう、医療と介護をスムーズにつなげていけるように、連携の推進・支援をして参ります。今後も多職種の皆様のご協力をお願いいたします。

坂本さん、この度はありがとうございました。

ますますのご活躍をお祈りいたします。



【お知らせ】

★ホームページを開設しました★

令和3年4月2日にセンター専用ホームページを開設しました。
センターの取り組み内容や研修案内、皆様の業務に関連したお役立ち情報を掲載していく予定です。「こんな情報があったらいいな」「この研修案内を載せてほしい」等ご要望をお受けいたします。お気軽にご連絡ください。ぜひ、<https://www.coco-care.com/> または右記QRコードよりご覧下さい。



なお、医師会病院ホームページにもセンター情報を掲載しております。
こちらの方には事業所情報の他、介護事業所向けの新型コロナウイルスの感染予防と管理のためのQ&Aを掲載しております。

★事業所をご紹介いたします★

今後も医療介護関係者のつながりを広め、また、深めていくため、いろいろな事業所をご紹介して参ります。新規に開設された事業所さんはもちろんのこと、地域に根ざした事業所さんも、掲載のご希望があれば、事業所PRの場所として是非ご活用ください!!!ご連絡をお待ちしております。



今後の活動予定

- 宮崎医療介護連携 ICT [通称 MICT (みくと)]
研修会の開催 (訪問、Web、DVD 貸出)
※随時、ご希望お受けいたします
- 各地区の多職種連携会議等への参加
- ★医療介護連携に関する様々な相談をお受け
します。お気軽にどうぞ。

開設時間

- 月～金曜日
午前 8 時 30 分～午後 5 時
- 土曜日
午前 8 時 30 分～正午
- ※日曜・祝日・年末年始は除く

〔発行〕公益社団法人 宮崎市郡医師会
地域包括ケア推進センター (医師会病院棟 1 階)
〒880-2102 宮崎市大字有田 1173 番地
TEL : 0985-77-9106 (直通) FAX : 0985-77-9126 (専用)
E-mail : care-suisin@cure.or.jp